

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	学校法人鎮西敬愛学園 敬愛中学校				
学年	1年	2年	3年	計	教員数 19
学級数	2	2	2	6	
生徒数	60	62	78	200	

・研究の概要

1. 研究主題

校訓「聞法・敬愛・自立・創造」の具現化にともなう豊かで総合的な「学力」の育成
～能力・適性に応じた学びを実現するシラパスの確立に向けて～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1年生・社会 社会科の基礎的技能を養うために、調べ学習を中心とした授業展開を行う。
- ・1年生・理科 理科の学習の楽しさをさらに深める工夫を行う。
- ・2年生・数学 生徒の興味・関心や理解の状況等に応じたグループ別授業を行う。
- ・3年生・英語 習熟度別クラス編成による英語演習の2年目であり、これまでの研究を継続する。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>国語科</p> <p>テーマ：個に応じた指導のための方法 仮説：「調べ学習 整理 発表」と続く一連の学習活動の中で、個に応じた指導により「話す・聞く」「書く」能力を発見・開発する。 研究内容・方法：結論に至るプロセスで自分の得意分野・不得意分野を見付け、自己の目標を設定し、分析・評価させる。また相互評価も適宜取り入れる。</p> <p>社会科</p> <p>テーマ：個に応じた指導のための方法 仮説：調べ学習を実践すれば、生徒の知られざる能力を発見することができる。 研究内容・方法：1年では調べ学習、2年では考えさせる学習、3年では調べて考えたことがらを発表させる学習を実践する。</p> <p>数学科</p> <p>テーマ：個に応じた指導のため指導法・指導体制の工夫改善 仮説：立体図形を自ら作成することにより、空間的な感覚を豊かにする。(1年) 幅広い内容の独自の学習プリントを使用することで、物事を整理して考えることができる。(2年) 同じ内容の課題を繰り返し行うことにより、学習内容の定着度が上がる。教師が個別に採点することで、生徒一人一人の理解度を把握でき、その状況に応じた指導を随時行うことができる。(3年) 研究内容・方法：様々な立体図形を自ら作成させ、発見したことを基に一斉授業で強化を図る。(1年) 習熟度に応じた日常的・具体的な確率の問題を通して理解と関心を高める。(2年) テーマごとに基礎演習プリントを2枚(同内容で数値が違うもの)作成する。テーマ別の学習を行った後、課題として取り組ませ、それをテーマごとの基準で採点する。理解が十分でない生徒にはもう一枚のプリント(ダッシュ)をさせる。生徒の理解の状況を把握し、指導方法・内容に反映させる。(3年)</p> <p>理科</p> <p>テーマ：目的意識をもって観察、実験を行う生徒を育てる理科学習法の研究 仮説：学習過程においてポートフォリオによる評価を導入すれば、目的意識をもって観察、実験を行う生徒が育つであろう。(1年) 身近な自然現象を観察することにより知的好奇心を刺激すれば、発展的な学習内容にも興味・関心をもって主体的に取り組むことができる。(2年) 生徒自身が自由な発想と工夫をすることができる教材の工夫により、発展的な学習内容にも興味・関心をもって主体的に実験に取り組むことができる。(3年) 研究内容・方法：目的意識を持続させるための教材研究 ポートフォリオの活用法の研究 知的好奇心を刺激できる教材の研究 新学習指導要領では削除された内容(単元)を発展的な学習内容として取り入れる。</p> <p>英語科</p> <p>テーマ：個に応じた実践的コミュニケーションの育成 仮説：生徒一人一人に合った目標を設定し、それに応じた指導を工夫すれば、ねらいが達成される。 研究内容・方法：アクティビティの導入 習熟度別授業の実施</p>
平成15年度	<p>国語科</p> <p>テーマ：目的別・テーマ別指導の方法 仮説：教科の内容を細分化してテーマを設定することで得意・苦手部分が明確になる。目的別の指導を行うことで、生徒の不安を取り除くことができる。 研究内容・方法：ジャンル 文法 修辞 表現 読解など</p>

	<p>社会科 テーマ：個に応じた指導のための方法 仮 説：調べ学習を通じて、自らが社会的事象に対する問題点を見付け出す力を養い、同時に研究課題を通して、自ら考える力を養うことができる。 研究内容・方法：中華人民共和国（1年） 中世の日本とアジア（2年） 人間の尊重と日本国憲法（3年） インターネットや書籍を利用して、調べ学習を行う。調べたことに対しての考察を加え、ディベート等を通じてそれを発表させる。</p> <p>数学科 テーマ：個に応じた指導のための教材開発 仮 説：様々な関係を文字を用いて表すことで、数学的な表現や処理の仕方を習得できる。（1年） 証明という新たな概念を個に応じて指導することで、論理的思考力を育成することができる。（2年） 個々のつまづきを解決しつつ、理解が十分である生徒に対してはより発展的な内容に取り組みさせるという習熟度別の学習形態をとることで、学習に対して意欲をもたせることができる。また、クラス編成を工夫することで、生徒間に競争意欲をもたせることができる。（3年） 研究内容・方法：文字を用いて関係や法則を式に表現したり、式の意味を読み取らせたりする。（1年） 各演習クラスに応じて、証明の仕方及び問題を工夫する。（2年） 週4時間は通常の授業を行い、週1回の選択授業を習熟度別クラス編成で行う。選択授業に対する生徒の反応、学習内容の定着度、学習意欲について研究を行う。（3年）</p> <p>理科 テーマ：発展的な学習に対応し、生徒自らが設定した課題を解決していく能力を育成する。 仮 説：知的好奇心を刺激できる教材を開発すれば、発展的な内容についても効果のある学習ができる。（1年） 生徒自身の興味・関心に応じた課題を設定し、発展的な学習を取り入れることで、生徒の興味・関心をさらに高めることができる。（2・3年） 研究内容・方法： 知的好奇心を刺激することのできる教材の開発 ポートフォリオの活用法の研究 生徒が興味を持った内容で研究テーマを設定し、成果を発表できる力を育成する指導</p> <p>英語科 テーマ：習熟度に応じた副教材の創意工夫 仮 説：習熟度に応じた副教材の工夫・改善を行えば、生徒一人一人の学力の向上を図ることができる。 研究内容・方法： 自己評価方法の工夫 習熟度別授業の実施</p>
平成16年度	<p>国語科 テーマ：教材開発の研究 仮 説：「総合的な学習の時間」はもとより、音楽・美術・社会などの教科と連携することより、他教科の得意な生徒が国語に興味・関心をもつようになる。 研究内容・方法： 映像・音響などを「言葉」で説明していく作業 伝承されている町の物語（伝説など）を収集し、自分達の住んでいる町の文化を考える 他教科とのティームティーチングも視野に入れる。</p> <p>社会科 テーマ：個に応じた指導のための方法 仮 説：調べ学習を実践することで、自分で調べたことをまとめ、考察し、それを表現する力を身に付けることができる。 研究内容・方法：身近な地域の暮らし・九州地方（1年） 日本の近世社会の成立（2年） 司法権のしくみ（3年） 地域学習を実践し、フィールドワークを通じて地域の発展等を調べる。また、社会見学を通じて「本物」に触れる機会を設ける。</p> <p>数学科 テーマ：個に応じた指導のための教材開発 仮 説：グラフの作成により、数量関係の見方や考え方を深め、そのよさを知ることができる。（1年） 様々な平面図形の性質に触れることで、図形的感覚を養うことができる。（2年） 習熟度別学習形態をとることで、個々のつまづきを解決し、理解の十分な生徒については、より発展的な学習に取り組みさせる。それによって学習に対する意欲を高めることができる。クラス編成を工夫することで、個に応じた適切な指導を行うことができる。（3年） 研究内容・方法：数量の関係を見だし、その特徴をつかみ、整理してグラフを作成する。（1年） 多くの問題に取り組み、解答に至るまでの根拠を明確にさせる。（2年） 習熟度別授業における個に応じた指導をより充実させる。（3年）</p> <p>理科 テーマ：発展的な学習に対応した、知的好奇心を刺激することができる教材の工夫 仮 説：以前の研究で開発した教材を改良し、生徒がより積極的に発展的な学習に取り組むことができるようにする。（1年）</p>

<p>観察、実験の技能を向上させることで、知的好奇心をもつだけに留まらず、主体的な学習活動へと導くことができる。(2年)</p> <p>生徒の理解度に応じて発展的な学習を取り入れることで、知的好奇心が刺激され、より強い興味・関心を示し、現象をさらに深く理解できる。(3年)</p> <p>研究内容・方法： 知的好奇心を刺激できる教材の改善 ポートフォリオの活用の仕方の研究 作業・操作を繰り返し体験させることで実験や観察の技能を習得させる 新学習指導要領では削除された内容を、発展的学習内容として取り入れる。</p> <p>英語科</p> <p>テーマ：学習意欲を引き出すために、反復練習を通して達成感を味わわせる</p> <p>仮説：学習意欲を引き出すための指導方法を工夫していけば、総合的な英語力が育成される。</p> <p>研究内容・方法： 教師の評価方法の工夫 習熟度別授業の実施</p>

(3) 研究推進体制

<p>「校務分掌」(教務 - 5教科主任会 - 教科会)</p> <p>「実践交流会分掌」(各分掌責任者 - 全職員)</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(国語科)各自の弱点部分を発見・意識させたことで、読み・書きの地道な作業を自発的に行えるようになった。 具体的には、意味調べなどについてはほとんどの生徒が自分の分からない語句を調べてくるので、どの語句について質問しても答えられるという状態で授業を展開することができた。</p> <p>(社会科)1年生では資料を読み取る力、2年生では調べたものをまとめる力、3年生では資料をまとめ調べたことを表現する力を養うことができた。</p> <p>(数学科)私学テストの結果を1学期と比較すると、2学期は全体的に上位層が増加した。具体的には、方程式・関数などの応用力を必要とする分野での正答率が10%程度上昇した。</p> <p>(理科)生徒たちが日常体験している事象を教材として用いることにより、生徒たちの関心・意欲が高まった。 また、その事象に関わる発展的な内容についても疑問を持ち、その解決にも積極的に取り組むようになった。</p> <p>(英語科)生徒の習熟度に応じた教材を使うことにより、生徒の興味・関心を呼び起こし、より積極的な学習への姿勢が身に付いた。</p>

2. 今後の課題

<p>各教科ともに共通して言えることであるが、全体的に教師の指示に従ってのみ動いており、少数であるが、苦手意識が強すぎて教師の答えをずっと待っている生徒がいる。授業の中で特色づくりをすることは、興味・関心を高める有効な手段であるが、生徒の様々な発想の中には難しいものも見られ、時間や材料の問題で実際に作ることができないものも多い。限られた条件の中で「自らテーマを設定する力」「テーマを解決していく能力」をいかに育てていくかが今後の研究課題である。また、その成果についても個々人がどこまで学習を進展させていったのかがつかみにくい点であり、点数としてはあらわれにくい。適切に評価できるよう、違った角度からの観点なども取り入れ、全体的な授業の流れをつかませるためにはどのようにすればよいか、前年度の学習内容をいかにして生かしていくかということも視野に入れて、今後も研究を進めていかなければならない。</p>

学力把握のための学校としての取組

私学テストの実施(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上フロンティアスクール実践交流会の実施(平成15年6月20日) ・企画広報、ホームページ(http://www.keiai.net)、その他を利用しての参加案内

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの新規校		
【学級規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		